

大阪・軽里遺跡

かるさと

1 所在地 大阪府羽曳野市軽里

2 調査期間 一九七七年(昭52)八月～一九七八年三月

3 発掘機関 大阪府教育委員会

4 調査担当者 尾上 実

5 遺跡の種類 造瓦用粘土採取地

6 遺跡の年代 平安時代中期～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

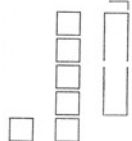
軽里遺跡は、西の羽曳野丘陵と、東の白鳥陵古墳から墓山古墳へと延びる中段段丘面に挟まれた、谷状の低位段丘面上に位置し、遺跡の東縁には古代の大水路として著名な「古市大溝」が北流する。調査は、大阪外環状線(国道一七〇号線)の建設工事に先立って実施したもので、調査面積は四一六〇㎡を測る。検出遺構の大部分は様々な規模の不定形土壌群で、遺跡周辺に

密集する数多くの寺院へ供給されるべき瓦の素材として、段丘粘土層を採取した痕跡と推定された。

土壌群の北縁には三基の井戸が検出され、うち一基(Se七〇)より木簡一点が出土した。井戸は素掘りで検出面での直径二・四m、深さ五・二mを測る。共伴遺物は鎌倉時代前半に属する黒色瓦器碗、土師皿、丸瓦の小片が少量あるのみである。

8 木簡の积文・内容

(1)

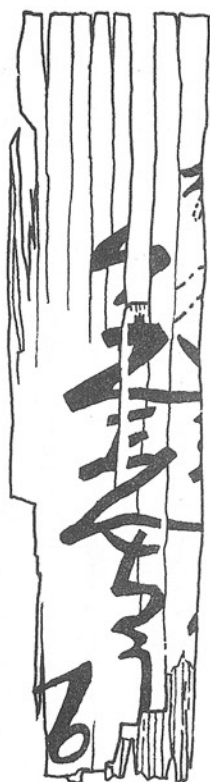


(103)×(26)×1.2 081

积文については成案を得ていない。樹種はヒノキである。

9 関係文献

大阪府教育委員会『挟山遺跡・軽里遺跡発掘調査概要』(一九七八年)



(尾上 実)